少子高齢化　中活　安全安心

さんじょうしちゅうしんしがいち

三条市中心市街地地区（第二期）

（新潟県三条市）

- ○ 計　画　期　間　令和２年度～令和５年度
- ○ 面　　積　501.1ｈａ
- ○ 交付対象事業費　3,091.8 百万円
- ○ 市人口　96,517 人（地区内人口 17,037 人）

ポイント

次代まで住み継がれ、安全安心で健幸に暮らせる賑わいあるまちづくり

目　　標

①にぎわいの場の再生

②防災・減災のまちづくり

地区概要

本地区は、東三条駅、北三条駅、三条駅に囲まれた三条市の中心市街地を形成している。これらの地区は、高齢化率が高く、商業施設の郊外移転が進み、空き店舗の増加や居住人口の減少など空洞化が進んでいる。また近年頻発する豪雨により依然として浸水被害が絶えないことから緊急的な浸水被害の軽減が求められている。

このことから、点在する公共施設の再整理を行い、都市機能の拡散を防止し、中心市街地の公共公益サービス機能の維持を念頭に置き、図書館を拠点としたまちの魅力付け、住民の安心・安全のための施策を基本方針とするまちづくりを推進することとしている。

指　　標

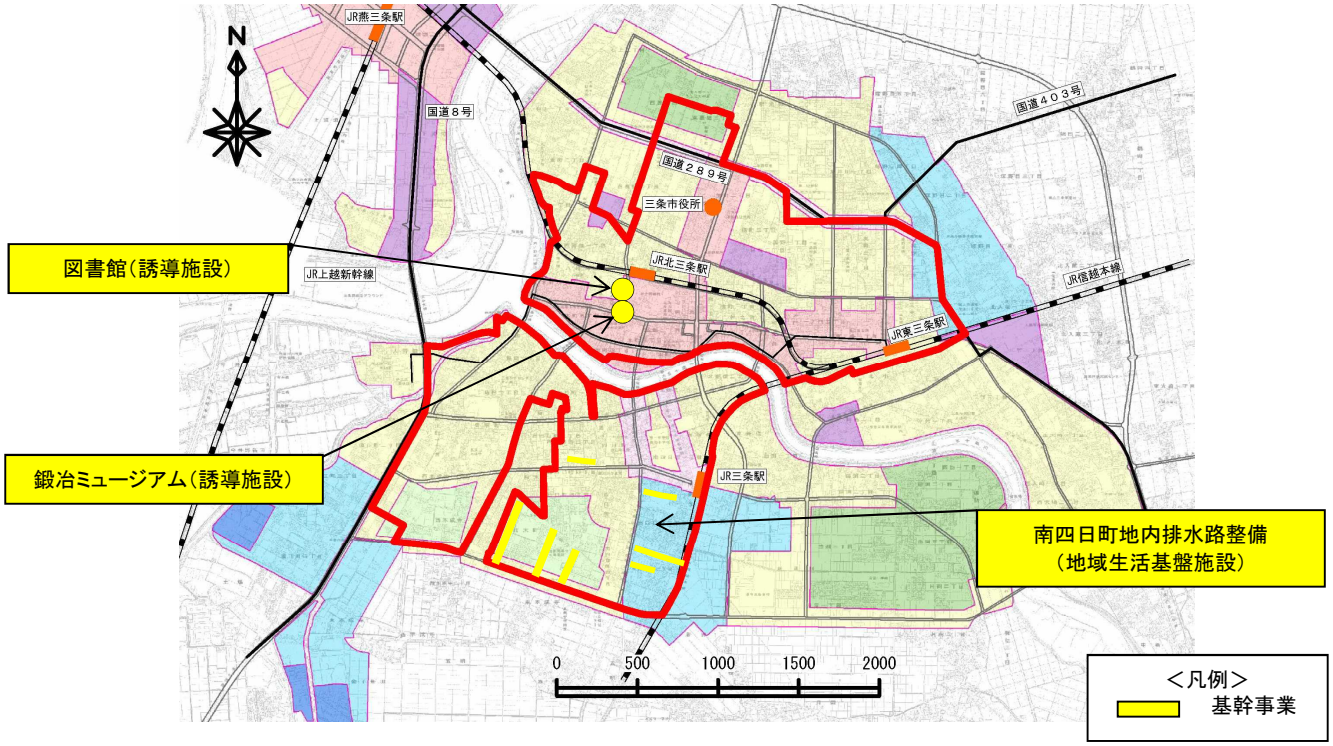
中心市街地の賑わいの再生、河川等の整備の充実・強化により、居住人口を維持することを示す指標とした。

まちなかの1日当たりの平均歩行者数	915 人	(R1)	→	1,079 人	(R5)
計画区域内の文化･交流利用者数	239,736 人	(R1)	→	288,249 人	(R5)
新通川･島田川沿線における人口(人口減少抑制効果)	6,083 人	(R1)	→	6,083 人	(R5)

事業内容

基幹事業（3,091.86 百万円）

→排水路整備(2,347m)、図書館整備、鍛冶ミュージアム整備



地区の現況と課題

現　況

中心市街地の高齢化率が高く、商業施設の郊外移転が進み、空き店舗の増加や居住人口の減少など空洞化が進んでいるため、歩行を促して病気予防につなげる事業「スマートウエルネス三条」や通りを歩行者天国にして開く市民主体の市場「三条マルシェ」、車の最高速度を 30 キロに規制した地域「ゾーン 30」等の事業を実施している。

現在、同地区におけるにぎわいの創出を図るために、スポーツの推進、文化や教養・教育活動及び交流活動の推進を3つの柱として、それぞれの機能を担う環境が必要である。スポーツの推進及び交流活動の推進は拠点としての施設整備を第一期で行ったところである。

また、近年頻発する豪雨により依然として浸水被害が絶えないことから、緊急的な浸水被害の軽減が求められている。これを解消するために、新通川・島田川沿線における、浸水被害の軽減、最小化及び解消を目指し、第一期から沿線の排水路整備に取り組んでいる。

課　題

○更なる賑わいの創出

第一期から引き続き、教養・教育活動の推進を担う環境整備が必要であり、図書館・鍛冶ミュージアムとして施設整備に取り組む。また、第一期において整備した全天候型広場等の既存施設の間で、来場者の回遊性を高める取り組みを行う必要がある。

○災害に強い安全、安心な生活環境整備

第一期から引き続き、沿線の排水路整備に取り組む。

計画策定プロセス

まちなかのにぎわい創出円卓会議

(図書館等複合施設整備ワーキンググループ)

まちなかの公共空間のデザインや公共施設の運用、運営、活用のあり方等を考える「まちなかのにぎわい創出円卓会議」を平成 30 年 10 月～令和2年8月の5回にわたり、外部の有識者や企業関係者等をメンバーとして開催した。

会議では、現場視察を交えてまちなかの現状を把握したうえで、まちなかに市内外から人が集まり、集まるだけでなく、人が歩いて回遊し、多彩な交流を生み出すことによる人のにぎわいの連鎖反応を生み出すための取組みについて活発な議論がなされた。

また、会議の一部として「図書館等複合施設整備ワーキンググループ」を開催し、まちなかにおける交流やにぎわい創出の中核となる図書館等複合施設とするために必要な機能（敷地全体の活用方針、建物配置、設備など）を検討した。

三条市体育文化会館
（地域交流センターとして第一期で整備）

ステージえんがわ
（全天候型広場として第一期で整備）

図書館整備イメージ

まちなかのにぎわい創出円卓会議
（会場:真宗大谷派三条別院）